

令和2年度 当初予算概要

担当：総務部財政課

令和2年度一般会計当初予算は、141億511万1千円。前年度当初予算に比べ、3,022万1千円（△0.2%）の減となっており、5年連続のマイナス予算となりました。

これは、保育所等整備事業、ふるさと納税推進事業、幼児教育・保育の無償化に係る経費などの増加はあるものの、6次産業チャレンジ法人支援事業などの地方創生推進交付金事業、地方道路整備事業、中河原白石沖線街路事業、白石スキー場整備事業（辺地対策事業）に係る経費などの減少によるものです。

主な事業の詳細は別紙1から6のとおりです。

令和2年度当初予算の主要事業

一般会計等

（単位：千円）

事業名	金額
○ 白石学びの環境づくり事業 （学力向上プロジェクト事業の充実）	12,226
○ 外国語・国際理解教育推進事業	34,227
○ （仮称）白石市子育て世代包括支援センター整備事業	4,010
○ いきいき百歳体操事業	856
○ 働き世代から始める健康づくり推進事業	4,294
○ スマートインターチェンジ整備事業	14,604

令和2年2月議会 記者会見資料
令和2年度当初予算関係

白石学びの環境づくり事業 (学力向上プロジェクト事業の充実)

担当：教育委員会学校管理課

今年度からスタートした「白石市学力向上プロジェクト」において、授業改善等の様々な取組を行ってまいりましたが、その効果の検証を行う中で明らかとなった本市の課題を克服し、本事業のさらなる充実と発展のため、新たに以下の事業を実施します。

○ 事業概要

1 文部科学省職員の招へい

埼玉県と共同で実施している白石市学力・学習状況調査の結果の効果的な活用を図るため、埼玉県学力調査の開発に携わった文部科学省職員を招へいして、教員を対象とする研修会を年3回実施します。

2 教育アドバイザーの委託

教育アドバイザーを委託し、実践事例に基づいた教員研修を行うとともに、授業改善へのアドバイスをいただくことで、本市の課題である国語科における読解力向上を図ります。

3 暗唱読本の作成

市内全保育園・幼稚園児、小・中学校児童生徒へ配布し、各園、学校において暗唱の時間を設け活用します。言葉や文章の音読をとおして語彙や言葉のリズム感などの表現力や思考力を養うことを目的とします。読本は、保育園・幼稚園用と小・中学校用の2種類を作成します。

[歳入] 県支出金
学力向上マネジメント支援事業委託金 5,000千円

[歳出] 10款 教育費 1項 教育総務費 3目 教育振興費
7事業 学力向上プロジェクト事業
7節 報償費 27千円
8節 旅費 83千円
10節 需用費 3,458千円
12節 委託料 8,383千円
学力調査業務委託料 3,682千円
白石市学力・学習状況調査業務委託料 691千円
校内実力テスト実施委託料 3,510千円
教育アドバイザー業務委託料 500千円
13節 使用料 275千円
合計 12,226千円

令和2年2月議会 記者会見資料
令和2年度当初予算関係

外国語・国際理解教育推進事業

担当：教育委員会学校管理課

グローバル化の進展により、日本を取り巻く環境が著しく変化している中で、持続可能な社会を構築するためには、世界の国々と共に考え、行動することが重要となっています。

本市の将来を担う子供たちが、他国との歴史や文化の相違を理解・尊重し、共に生きる力、コミュニケーション能力を身に付けることをねらいとし、本事業を実施します。

○ 事業概要

- 1 外国語指導助手（ALT）の増員
- 2 英語検定受験料に対する補助（新規事業）
- 3 中国上海への中学生派遣（新規事業）
- 4 オーストラリアへの中学生派遣（継続 総務課予算）

1 ALTの増員について

令和元年度はJETプログラムによるALT3名と市直接雇用1名の計4名を採用し、小・中学校における外国語活動、英語科の授業において、日本人教師とのチームティーチングによる活用を図ってまいりました。現在、小学校では3年生以上の外国語活動においてALTを活用していますが、令和2年度から1名増員することで、低学年においても生活科等の時間を利用し、国際交流活動を行います。また、市内保育園・幼稚園へ年3回ALTを派遣し、交流活動を行っていますが、公立幼稚園への派遣回数を年10回程度に増やします。ゲームなどのアクティビティをとおして、幼児期、低学年から異文化に触れる機会を増やし、外国語（英語）によるコミュニケーションができる児童生徒の育成を図ります。

2 英語検定受験料に対する補助について

年3回実施される「実用英語技能検定」の2級から5級までの受験料の1/2を市が補助します。補助対象は小学1年生から中学3年生までとし、受験回数の制限は設けず、受験料の負担を軽減することで、英語の学習意欲の向上を図ります。

3 中国・上海への中学生派遣について

中国最大の経済都市である上海へ、本市の中学生8名を派遣する予定です。現地の学校での交流活動やホームステイ、企業訪問等とおし、異文化に対する理解を深め、多様な価値観や国際的な広い視野を持つ生徒の育成を図ります。派遣に係る業務については、本市のインバウンド誘致事業において連携を図っている一般社団法人宮城インバウンドDMOへ業務委託を行います。

4 オーストラリアへの中学生派遣事業

令和2年度も今年度同様、中学2年生8名を派遣する予定です。日本と親交が深いカウラ市において現地の学校での体験入学、ホームステイを行います。

[歳入] 諸収入

中学生中国派遣事業保護者負担金	400千円
英語検定受験料保護者負担金	480千円

[歳出] 10款 教育費 1項 教育総務費 3目 教育振興費

20事業 外国語・国際理解教育推進事業

1節 報酬	11,551千円
3節 職員手当	203千円
4節 共済費	3,632千円
8節 旅費	184千円
10節 需用費	9千円
11節 役務費	81千円
12節 委託料	12,811千円
外国語指導助手派遣業務委託料	9,499千円
英語検定受験業務委託料	960千円
中学生中国派遣業務委託料	2,352千円
13節 使用料	1,418千円
18節 負担金	233千円
合計	30,122千円

2款 総務費 1項 総務管理費 16目 国際交流費

2事業 国際交流事業費

18節 負担金	4,105千円
---------	---------

令和2年2月議会 記者会見資料
 令和2年度当初予算関係

(仮称)白石市子育て世代包括支援センター整備事業

担当：保健福祉部健康推進課

地域のつながりの希薄化に伴い、妊産婦の孤立が進み、子育てに対する不安感や負担感が高まっています。こうした社会情勢を背景に、母子保健施策と子育て支援施策の一体的な提供を通じて、妊産婦及び乳幼児並びにその保護者の生活の質の改善・向上や胎児・乳幼児にとって良好な生育環境の実現・維持を図るため、平成28年6月の児童福祉法の一部を改正する法律により、各市町村に「子育て世代包括支援センター」を設置することが、努力義務と規定されました。

そのため、本市では、子育て支援の新たな拠点となる「(仮称)白石市子育て世代包括支援センター」の令和2年度内の設置に向けて準備を進め、母子保健施策と子育て支援施策の一体的な提供体制を構築することで、子育て世帯がいきいき暮らすことができるよう、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を目指します。

○ 事業概要

1 実施場所

白石市健康センター

2 事業開始

令和3年3月(予定)

[歳入]	国庫支出金				
	子ども・子育て支援交付金			1, 3 3 3	千円
	県支出金				
	子ども・子育て支援交付金			1, 3 3 3	千円
[歳出]	4款 衛生費	1項 保健衛生費	2目 健康センター費		
	2事業 一般管理的経費				
	14節 工事請負費			2, 6 5 7	千円
	17節 備品購入費			1, 3 4 3	千円
	4款 衛生費	1項 保健衛生費	3目 予防費		
	6事業 母子保健事業				
	10節 需用費				1 0 千円
			合計	4, 0 1 0	千円

令和2年2月議会 記者会見資料
令和2年度当初予算関係

いきいき百歳体操事業

担当：地域包括支援センター

いきいき百歳体操は、高齢者がいきいきと健康で元気に暮らすことができるよう、介護予防を目的として始まった体操です。

本市では、誰でも参加でき、楽しく継続していけるよう、市民が主体となって、それぞれがグループをつくって、自主的に取り組んでいます。

平成27年度から取り組み始めたこの体操は、平成30年度の「いきいき百歳体操大交流会」の報道をきっかけに活動が広がり、昨年度末の13団体・参加者176人から、現在は22団体・参加者約350人までに増え、市民自らの手による介護予防事業として、市民の介護予防への意識づけに大きな影響を与えております。

令和2年度には、さらに多くの市民の方にこの取り組みを知っていただけるよう、宮城県と共催で行う講演会を企画しており、また、9月の大交流会に向けて、団体の方々が中心になって準備を行っていきます。

本市では、今後とも団体に対する活動支援を行い、高齢者が、いきいきと健康で元気に暮らすことができるよう、介護予防施策を推進し、健康寿命の延伸を図ります。

○事業概要

1 いきいき百歳体操応援事業

百歳体操を活用し通いの場を開催する団体（4人以上）に対して、百歳体操の方法、体力測定などをサポート

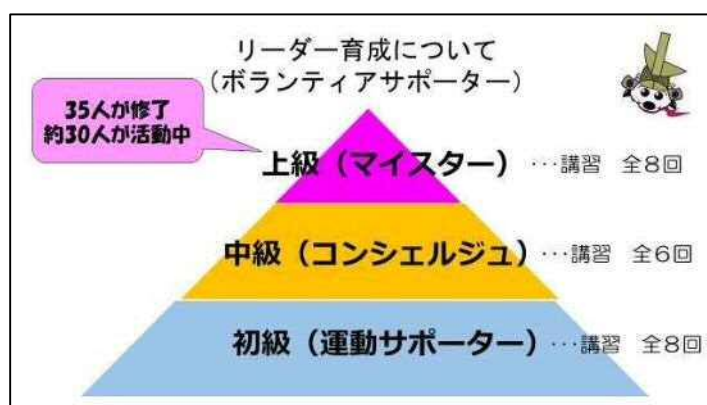
いきいき百歳体操参加団体は、22団体、約350名（令和2年1月現在）

2 ボランティアサポーター（初級・中級・上級）養成講座

3 マイスターフォローアップ講座

4 いきいき百歳体操大交流会

マイスターと各団体会員の有志による実行委員が主催で、年1回開催



[歳入] <介護保険特別会計>

保険料（第1号被保険者保険料）	1 9 7 千円
国庫支出金（地域支援事業交付金）	2 1 4 千円
支払基金交付金	2 3 1 千円
県支出金（地域支援事業交付金）	1 0 7 千円
繰入金（地域支援事業交付金）	1 0 7 千円
合計	8 5 6 千円

[歳出] <介護保険特別会計>

3 款 地域支援事業費	2 項 一般介護予防事業費	
1 目 一般介護予防事業費	2 事業 一般介護予防事業費	
7 節 報償費		6 7 5 千円
1 0 節 需用費		9 0 千円
1 1 節 役務費		2 4 千円
1 3 節 使用料及び賃借料		6 7 千円
	合計	8 5 6 千円

令和2年2月議会 記者会見資料
 令和2年度当初予算関係

スマートインターチェンジ整備事業

担当：建設部建設課

白石市の新たなヒト・モノの流れを生み出す施策として、企業活動の支援や観光振興、地域医療の充実など多様な効果が期待できる「(仮称)白石中央スマートインターチェンジ」の整備は、昨年9月にその必要性が認められ、国の準備段階調査に採択されました。

本市が、将来にわたり持続可能であり続けられるためには、地域間のネットワークを強化するための幹線道路をはじめとする社会基盤整備が必要不可欠であり、特に、スマートインターチェンジの整備は、交流人口や関係人口の拡大と円滑な物流の確保など、地域間の相互連携により相乗効果を生み出す「地域活性化の起爆剤」と考えており、地元企業からも大きな期待が寄せられています。

「(仮称)白石中央スマートインターチェンジ」が整備されれば、東北縦貫自動車道のさらなる有効活用が図られ、新たな企業誘致の実現をはじめ、中心市街地の活性化や観光振興、災害支援など、さまざまな効果が期待できることから、引き続き関係機関と協議を進め早期事業化を目指します。

[歳出]	8款	土木費	2項	道路橋梁費	1目	道路橋梁総務費	
	3事業	スマートインターチェンジ整備事業					
	7節	報償費					50千円
	8節	旅費					876千円
	10節	需用費					40千円
	11節	役務費					20千円
	12節	委託料					13,618千円
		土地利用基礎調査業務委託料					
					合計		14,604千円